

原薬から製剤まで 医薬品のダイト

DAITO

個人投資家様向け 会社説明会資料

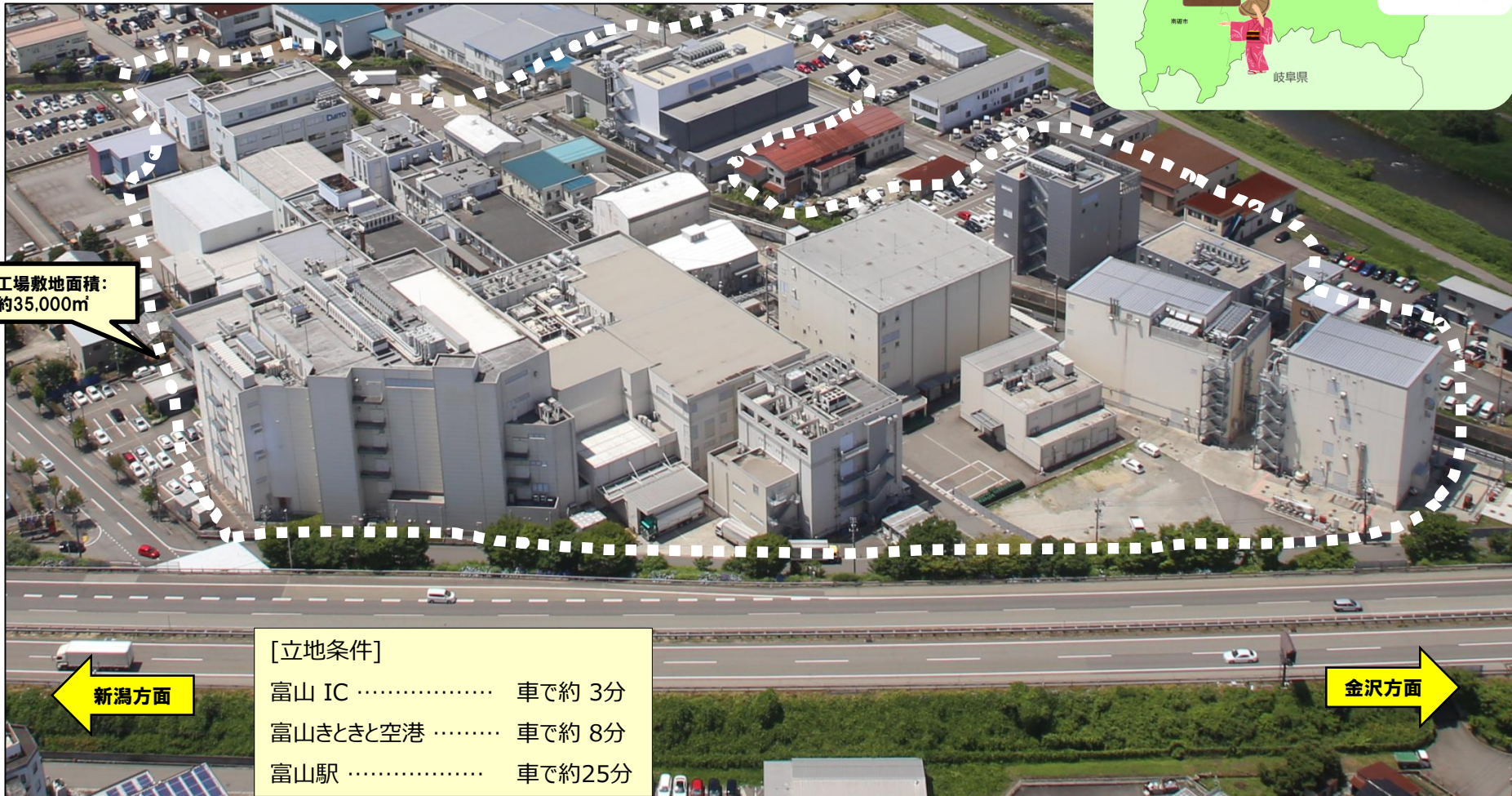
2020年9月1日 (火)

東証一部：4577

ダイト株式会社

全景

本社・本社工場・研究所



工場敷地面積:
約35,000㎡

[立地条件]

富山 IC	車で約 3分
富山きとときと空港	車で約 8分
富山駅	車で約25分

新潟方面

金沢方面

I. 会社概要	P 4
II. 成長戦略と進捗状況	P 14
III. 決算概要と今期予想	P 29
IV. 中期経営計画	P 44

I. 会社概要

社 名 : ダイト株式会社

本社所在地 : 富山県富山市八日町326番地

設立年月 : 1942年6月

決算期 : 毎年5月末

代表者 : 代表取締役社長 大津賀 保信 (おおつが やすのぶ)

従業員数 : 784名 (平均臨時雇用者数45名 外数) ※連結、2020年5月31現在

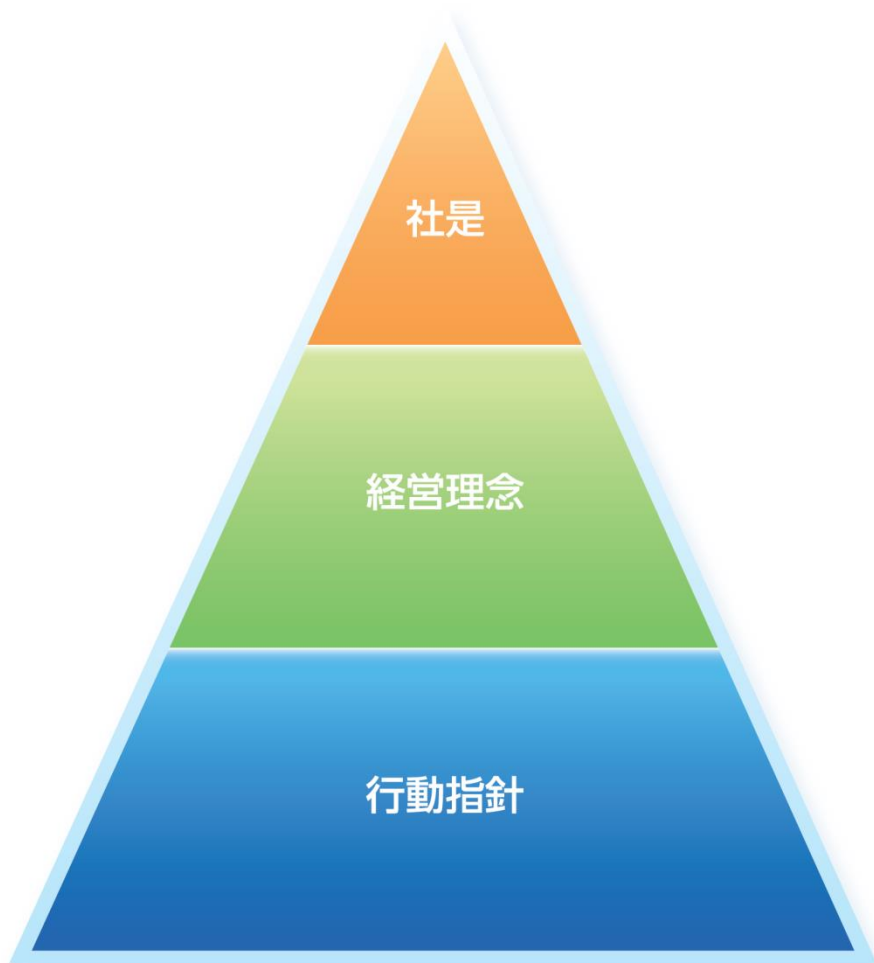
事業内容 : 原薬及び製剤の製造販売・製造受託・仕入販売、健康食品等の販売

子会社 : 大和薬品工業株式会社 (原薬の製造)

Daito Pharmaceuticals America, Inc. (原薬・製剤の輸出業務支援)

大桐製薬(中国)有限責任公司 (中国での製造)

社是・経営理念・行動指針



社是

創造 闘志 誠実

- 一、アイデアをもち考える人間
- 一、実行力と根性のある人間
- 一、自分は企業を守る人間

経営理念

社員が「楽しい会社、楽しい仕事」を実感できる働きやすい職場を作り、健康な社会作りに貢献し、選ばれ続ける企業を目指します。

- 「楽しい会社」とは
社員自らの成長と会社の成長が連動し、いきいきと楽しく仕事ができる会社
- 「楽しい仕事」とは
病を治したい患者さんや健康を求めるお客様に役立つように、社会に対して製品を供給する喜びを味わえる仕事

社是・経営理念・行動指針

行動指針

経営理念のもと、選ばれ続ける企業を目指します。



- 誠実な姿勢 法令を遵守し、公正、公平に活動します
- みなさまからの信頼 更なる品質の向上とお客さまへの確実な供給を行います
- 社会への貢献 日々の活動を通し、みなさまを支えます
- 環境との調和 環境に配慮し、地球とともに歩みます
- 更なる挑戦 新たな分野、新たな技術へ挑戦します
- 世界への飛躍 世界を舞台として優れた医薬品を提供します

1942年 6月	富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制会社として大東亜薬品交易統制株式会社を設立 ※1991年 ダイト株式会社(現社名)に商号変更
1949年 3月	配置用医薬品製造を開始
1950年 6月	原薬卸業部門を開設し、原薬の販売を開始
1963年 5月	大阪市東区に大阪営業所を新設 ※1973年12月 大阪支店に昇格。1987年8月 中央区に移転
1965年 4月	東京都千代田区に東京営業所を新設 ※1970年9月 東京支店に昇格
1976年 10月	医療用医薬品(ジェネリック医薬品)の製造を開始
1979年 11月	原薬の製造を開始
1985年 4月	O T C 医薬品の製造を開始
1987年 7月	大和薬品工業株式会社を子会社化 ※2007年10月 株式交換により完全子会社化
1989年 10月	原薬の新薬中間体の受託製造を開始
2001年 9月	医療用医薬品の受託製造を本格的に開始
2007年 11月	米国イリノイ州に駐在員事務所を設置 ※2008年6月 廃止
2008年 6月	Daito Pharmaceuticals America, Inc. 設立
2010年 3月	東京証券取引所市場第2部に上場
2011年 3月	” 第1部に指定
2012年 9月	安徽微納生命科学技术開発有限責任公司を子会社化 [現社名：大桐製薬(中国)有限責任公司]

設備の状況

1949年 事務所・工場を新設

1971年 研究所を富山市に新設

※1985年同研究所を本社工場の隣接地に新設・移転

1979年 第一製剤棟を新設

1979年 原薬実験棟を新設

1985年 第二製剤棟を新設

1982年 第一原薬棟を新設

1986年 原薬包装棟を新設

1989年 第一物流センターを新設

1989年 第二原薬棟を新設

1993年 第三製剤棟を新設

1995年 第二物流センターを新設

1999年 第三原薬棟を新設

2001年 第五製剤棟を新設

2001年 第三物流センターを新設

2003年 第二包装棟を新設

2007年 第三包装棟を新設

2007年 第五原薬棟を新設

2008年 第六製剤棟を新設

2007年 第五物流センターを新設

2011年 厚生棟を新設

2012年 第五原薬棟設備を増設

2014年 大桐製薬(中国)に製剤棟新設

2014年 大和薬品工業(株)に原薬工場棟新設

2014年 高薬理製剤棟新設

2015年 第六原薬棟完成

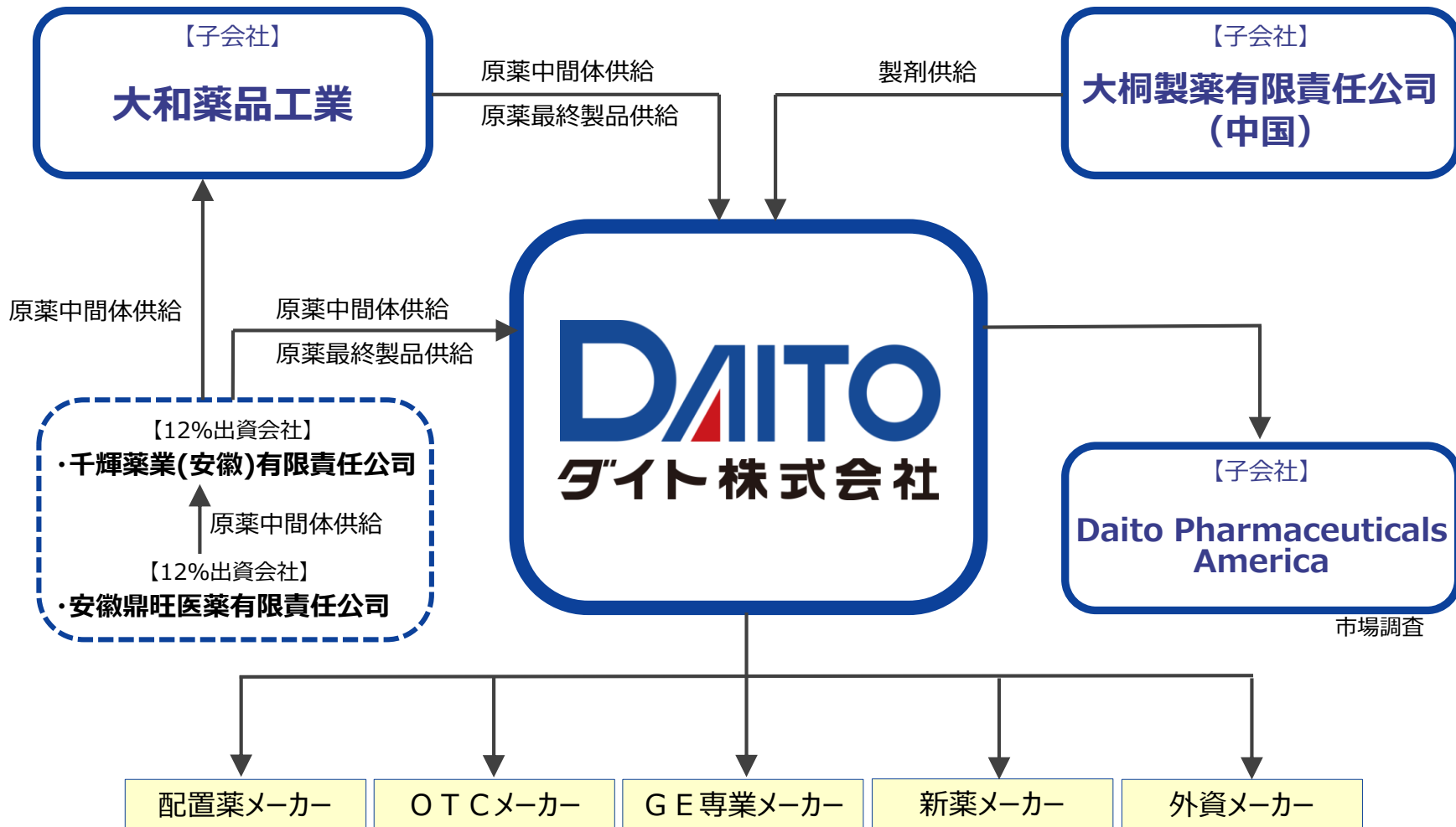
2015年 第三原薬包装棟完成

2016年 原薬工業化プロセス研究棟新設

2017年 高薬理 R & D センター新設

2018年 第八製剤棟を新設

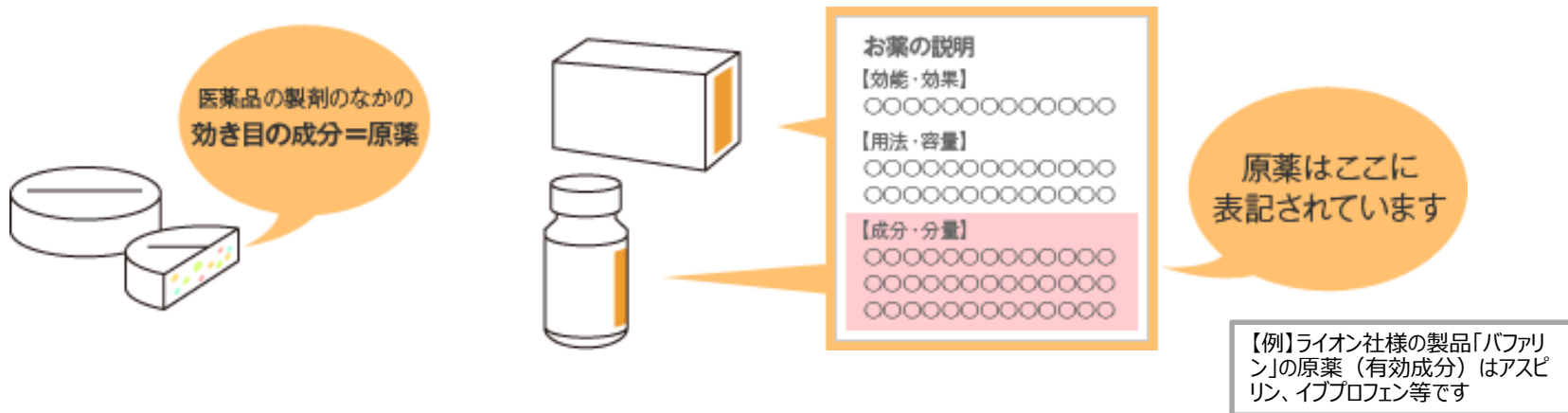
当社グループ



原薬とは

医薬品を製造するための原材料であり、

一般には、**医薬品の中に含まれる有効成分**のことを指します。



製剤とは

原薬に乳糖やでんぷん等の添加剤を加え、

錠剤や顆粒剤などに加工された医薬品のこと。



当社ビジネスモデルの特長

原薬と製剤のコラボレーション

- 原薬・製剤それぞれの営業部門の情報を共有化し、高い情報収集・提供能力を発揮
- 自社（グループ企業も含む）原薬から製剤まで製造することにより高品質と低コストを実現
- 原薬・製剤の開発データの共有化によって、より市場ニーズに合った製品の開発が可能

医薬品製造への資源集中

- 販売並びに開発に掛ける費用を抑えることにより、医薬品の製造に経営資源を集中
 - ⇒ 独自にMRは持たず、固定費の抑制
 - ⇒ 開発品目はジェネリックの原薬及び製剤のみであり、新薬に比べて開発リスク及び開発コストが低い

幅広い生産品目

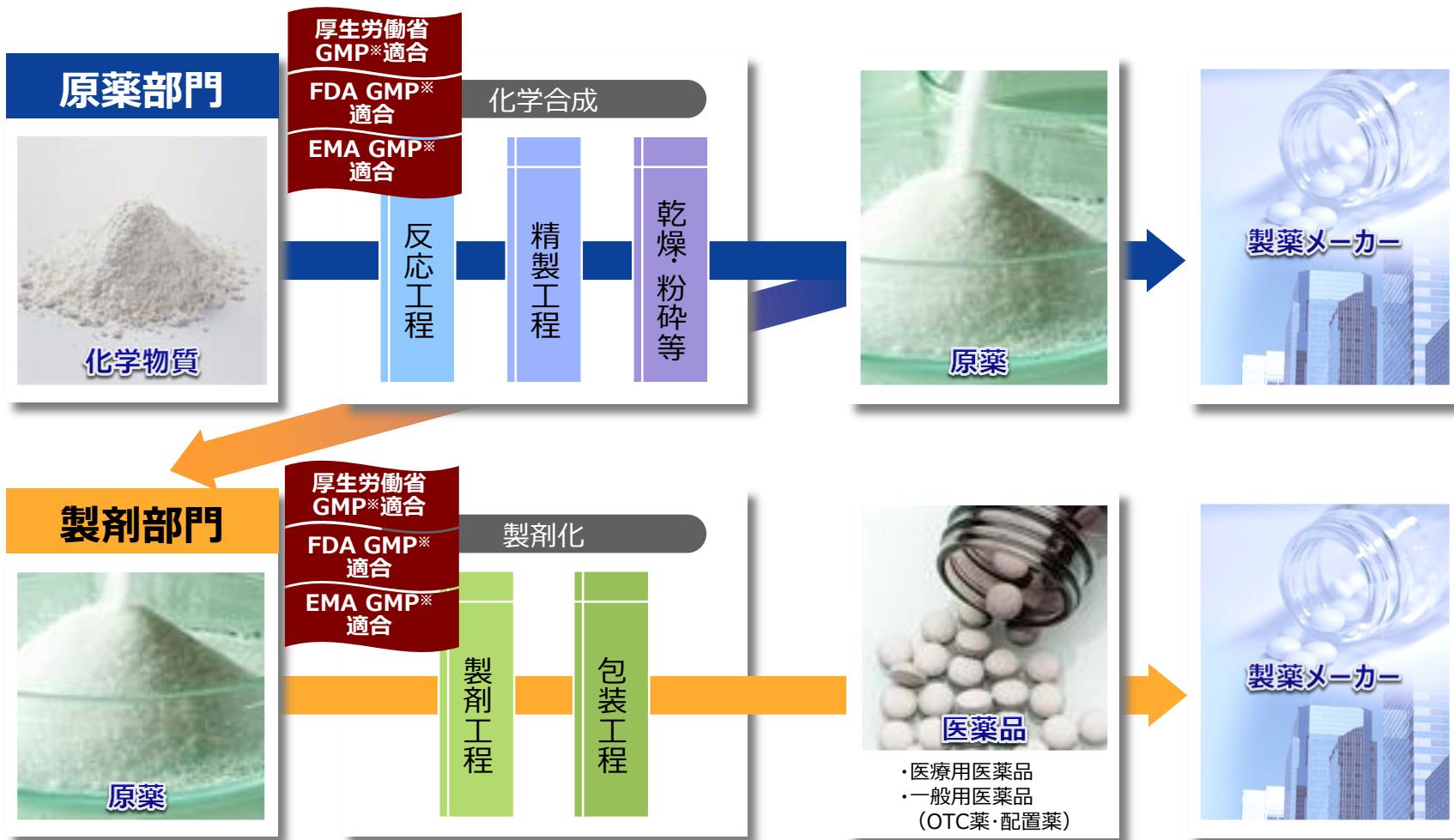
- ジェネリック医薬品のみならず、新薬や長期収載品の受託製造、O T C薬の製造まで幅広くカバー
 - ⇒ 多数の品目カテゴリーを製造販売することにより、市場の成長の幅広い取り込みが可能
 - ⇒ 大手メーカーの製造受託に応えることにより、高レベルな品質・製造のノウハウを保有

商社機能の充実

- 自社で生産していない品目であっても、国内外における独自のネットワークで他社から仕入し販売を行う
 - ⇒ ダイトは元々商社であるため、仕入のネットワークが構築されている。販売先が必要な情報の提供を行うソリューションビジネスを展開

他社にはない独自のビジネスモデルを形成

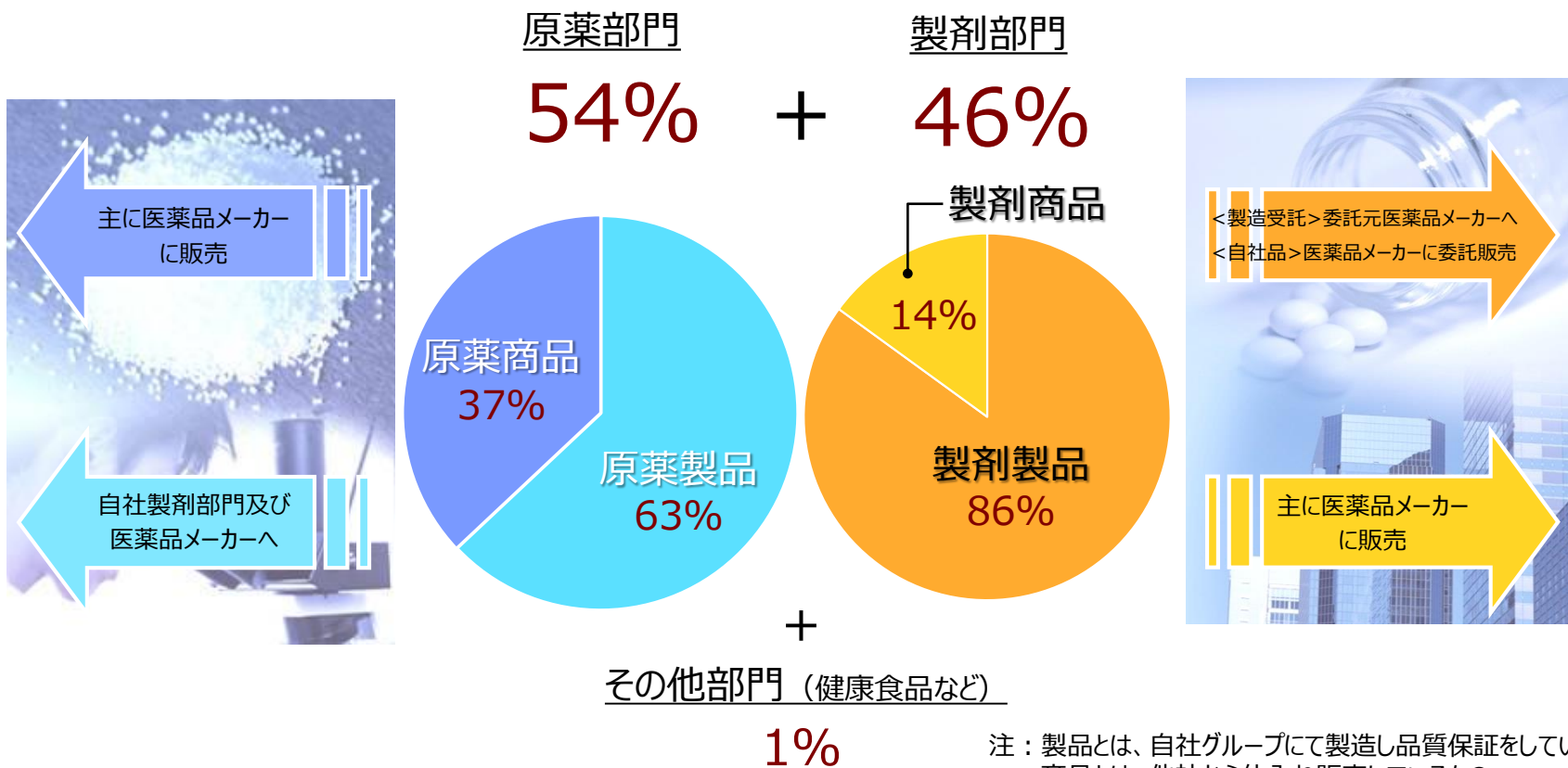
参入障壁が低い業界だが、
当社のような独自のビジネスモデルを確立しているメーカーは少ない



※注：医薬品等の製造管理・品質管理基準

原薬から製剤までの生産体制をベースに、 高品質な製品・商品両方の展開で顧客ニーズに対応

部門別売上構成（2020年5月期）



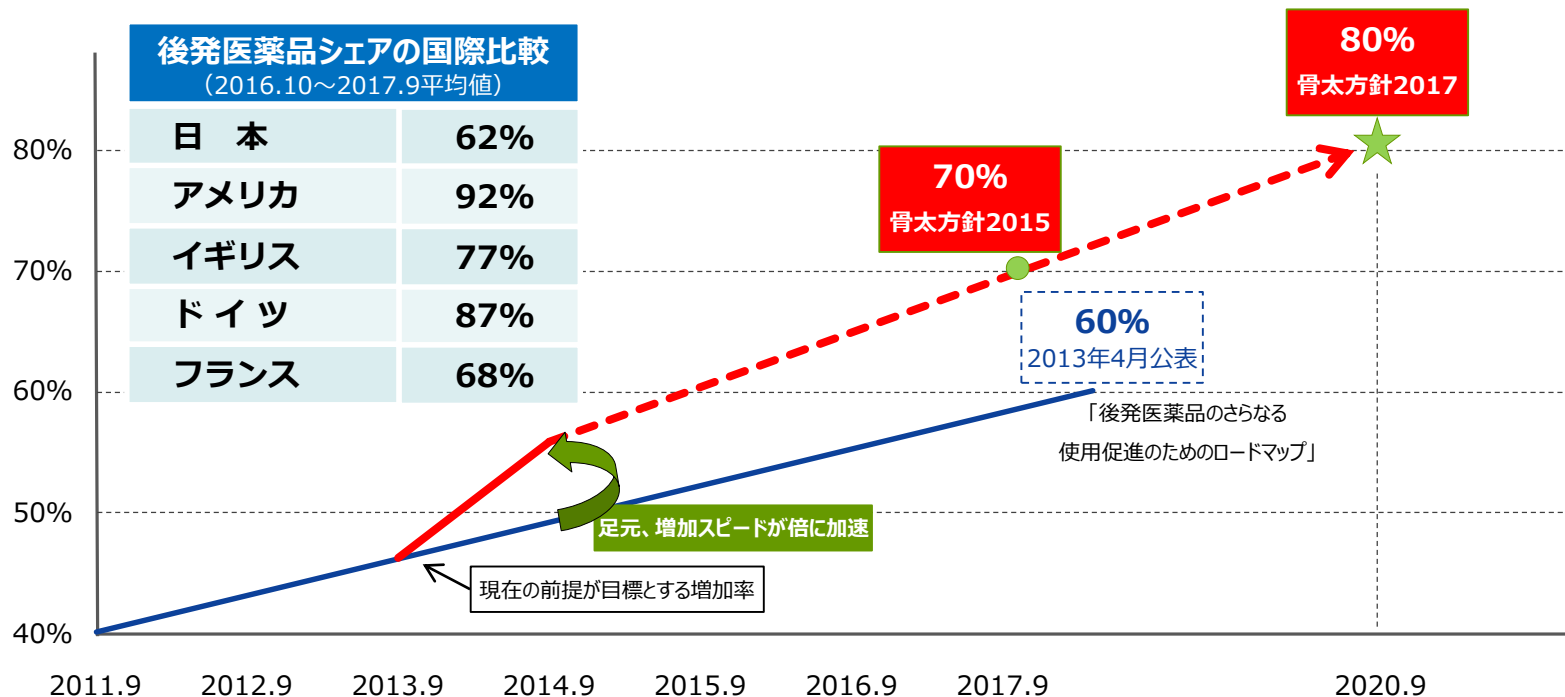
注：製品とは、自社グループにて製造し品質保証をしているもの
商品とは、他社から仕入れ販売しているもの

注：丸め処理のため、各セグメントの合計値は100%にならない

Ⅱ. 成長戦略と進捗状況

拡大加速が見込まれるジェネリック医薬品市場

ジェネリック医薬品の数量シェア目標



数量シェア拡大に向けた追加措置候補

- 安定供給策
- 品質等に関する信頼性向上策
- 情報提供の充実策
- 診療報酬上の措置

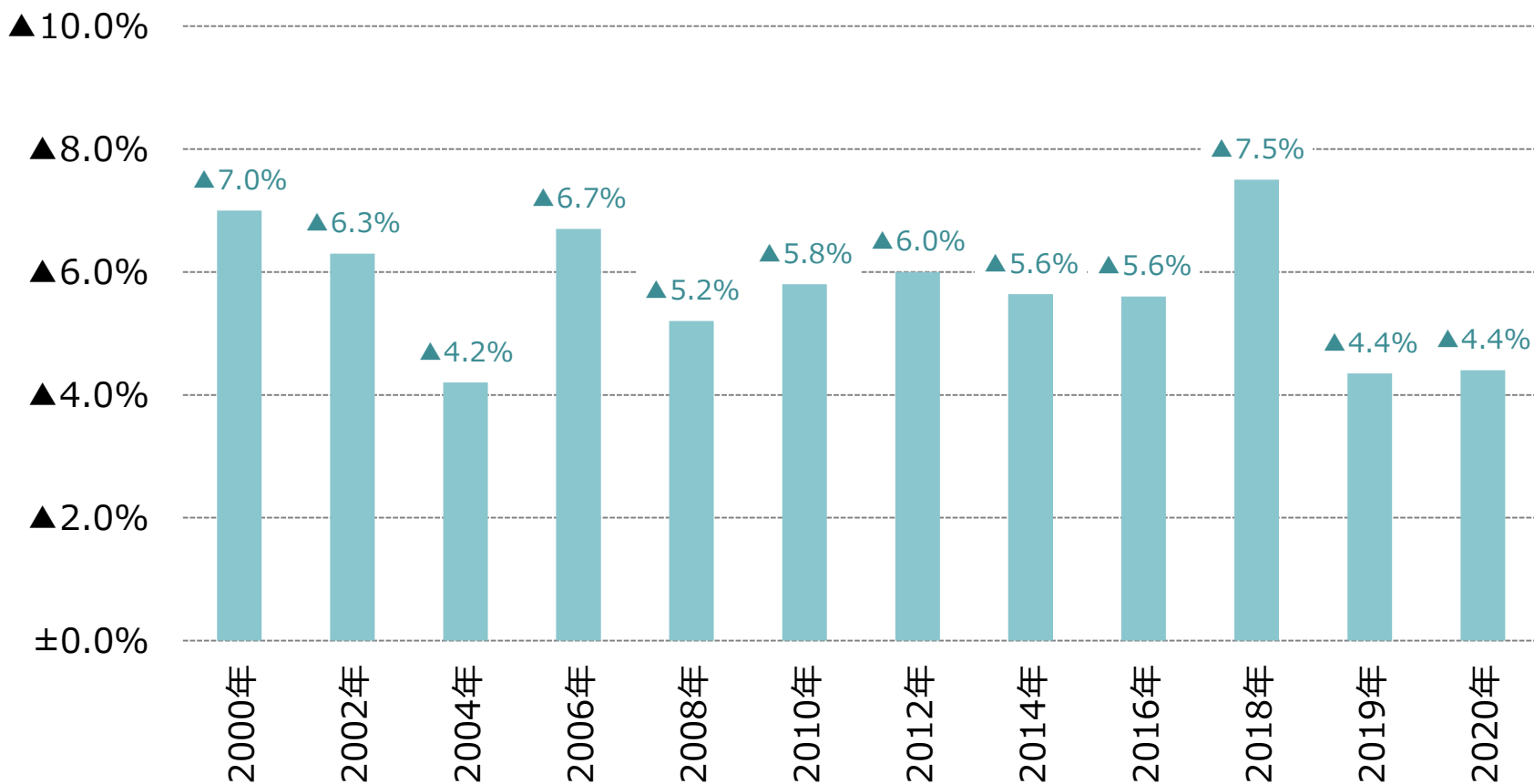
国民負担軽減策候補

- ジェネリック医薬品の薬価算定ルールの見直し
- 長期収載品の保険制度による評価見直し

(出所) 骨太の方針2015、骨太の方針2017を基に作成

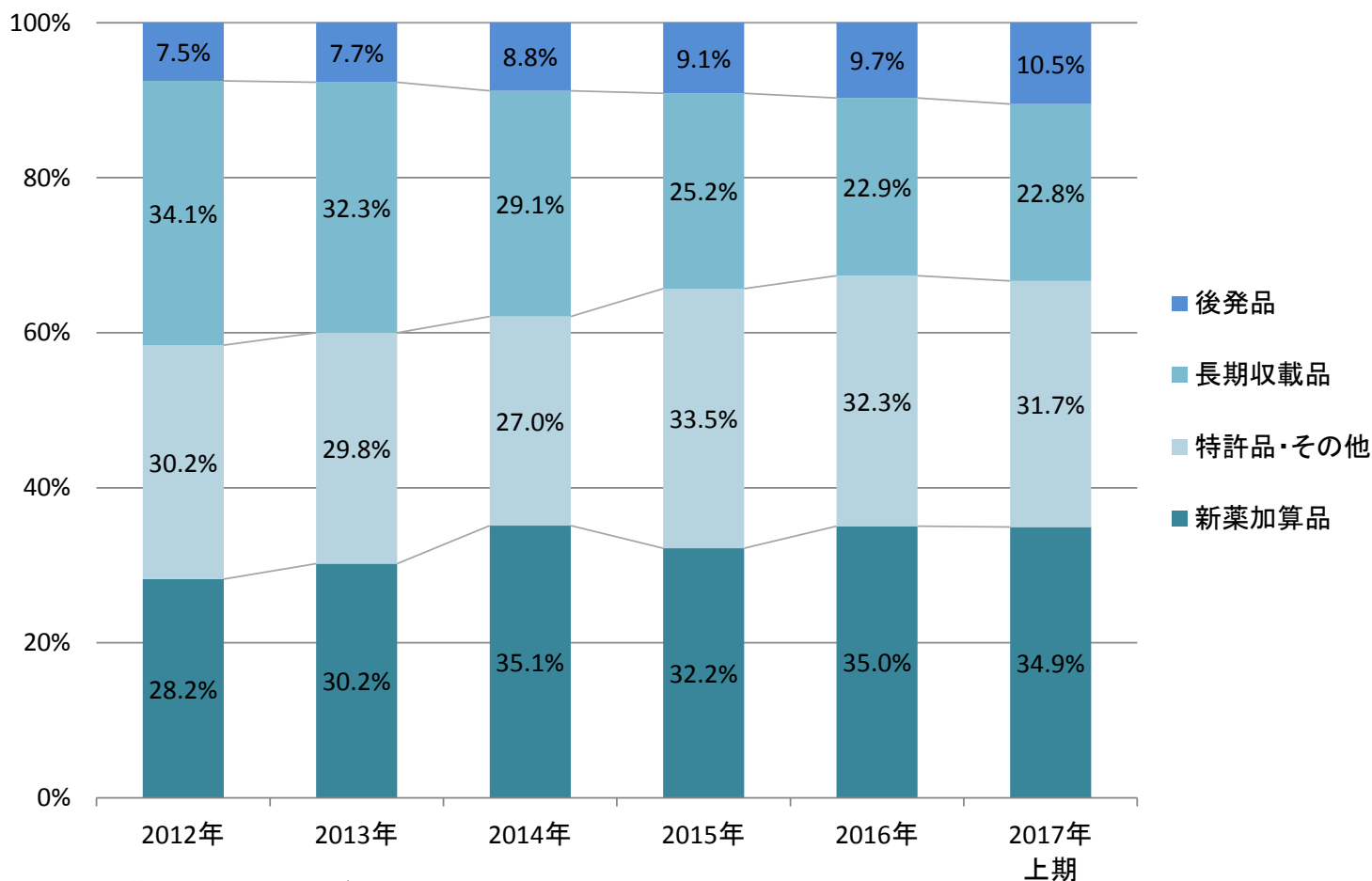
薬価下落率の推移

- 国の方針で、薬価は抑えられている。
- 2021年より、薬価改定を毎年実施することが予定されている。



日本医薬品市場

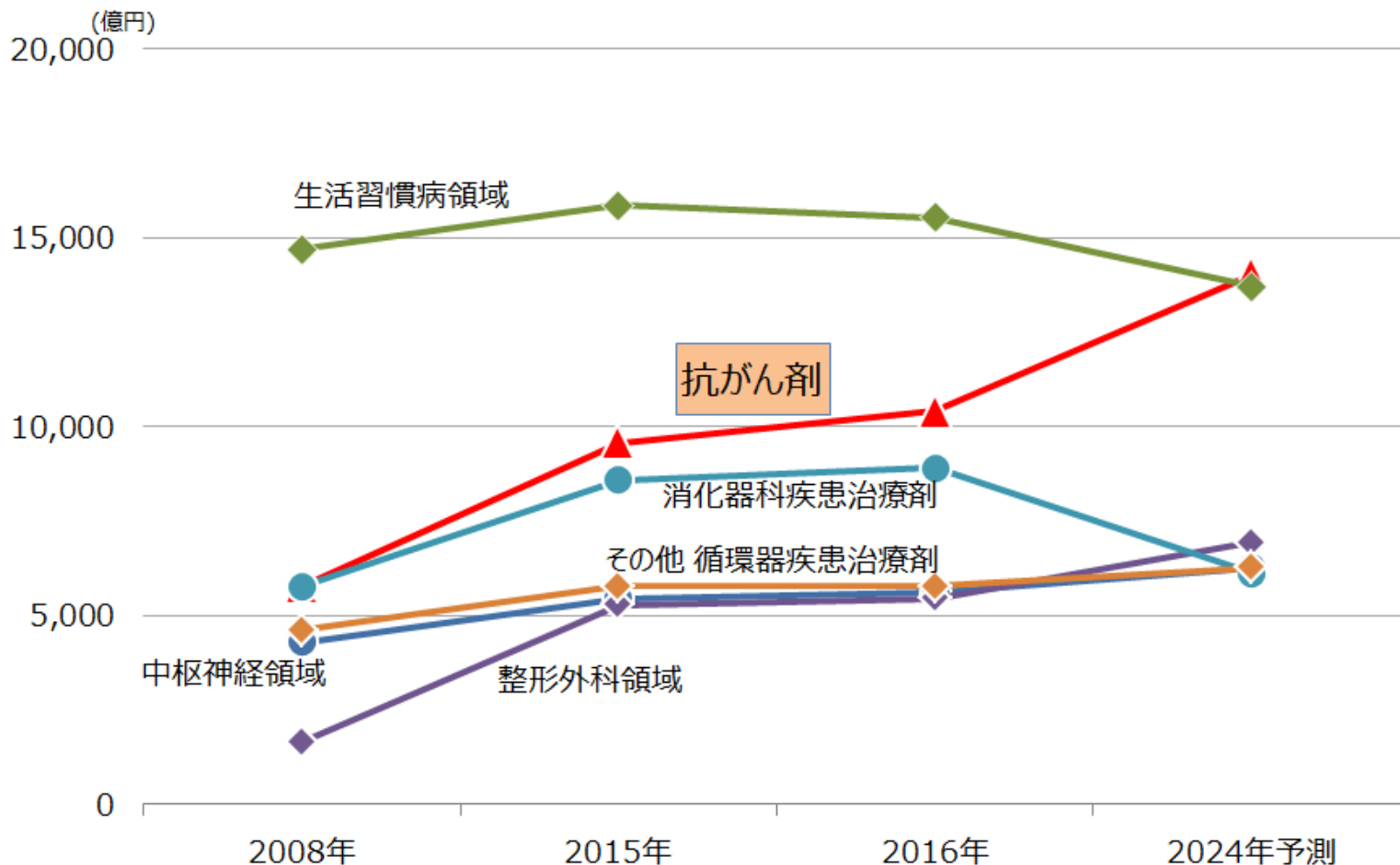
- 傾向として「後発品」が増加し、「長期収載品」が減少
- 2017年度上期の特徴として、前年度と比較して「特許品・その他」が減少



日本医薬品卸売連合会のデータを基に弊社にて作成

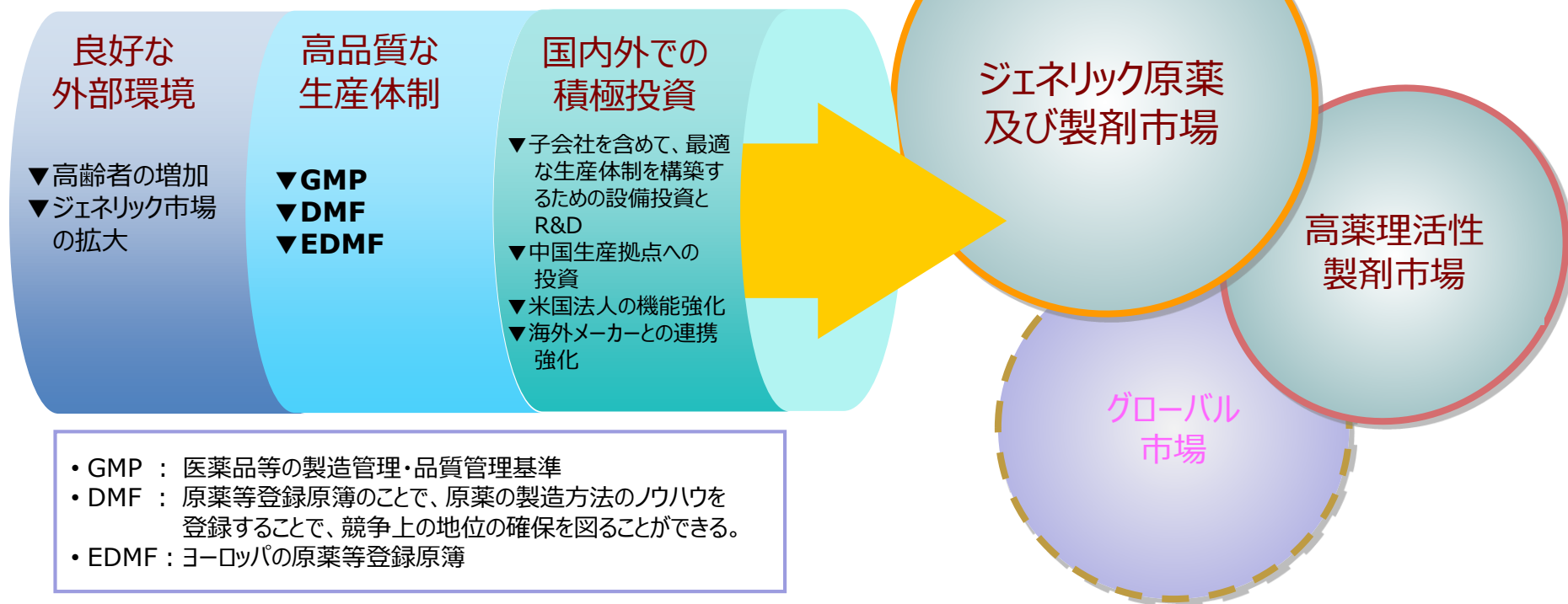
日本 薬効別医療用医薬品 売上推移

- 医療用医薬品売上は、薬効別で2024年に抗がん剤がトップとなる予測
- 生活習慣病薬は、ジェネリック薬の影響を受けるため、低下傾向



富士経済社の公表資料を基に弊社にて作成

市場の追い風と高度な製造技術をベースに、
業界ポジション確立に向けた投資を継続し、
高薬理活性領域への展開も図る。



既存ビジネス

- 当面、重点的に強化していく課題

「研究開発の強化」

(研究開発費：対売上比で3～5%水準)
(高薬理活性領域も着手)

「開発・生産能力増強投資を継続」

(安定供給・品目拡大)

第七原薬棟：2021年12月 竣工予定

「生産効率化の推進」

新規ビジネス

- 中長期的な成長に向けての布石

「高薬理活性製剤への注力・拡充及び海外展開」

第八製剤棟：
1ライン目：2020年3月 商用生産開始
2ライン目：2020年12月 竣工予定

研究開発の成果 ①ジェネリック原薬

ジェネリック原薬2020/5期と2021/5期の上市品

- 2020/5期の主な上市品

(2019年6月の新規販売分)

薬効	品名
抗精神病剤	ブロナンセリン

- 2021/5期の主な上市品

(2020年6月の新規販売分)

薬効	品名
アレルギー性疾患治療剤	レボセチリジン
アルツハイマー型認知症治療剤	メマンチン
非ステロイド性消炎・鎮痛剤	セレコキシブ

ジェネリック製剤2020/5期と2021/5期の上市品

● 2020/5期の主な上市品

(2019年6月の新規収載分)

一般名 (規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
カペシタビン錠 (300mg)	抗悪性腫瘍剤	ゼローダ錠 (中外製薬)	ヤクルト本社
ゲフィチニブ錠 (250mg)	抗悪性腫瘍剤	イレッサ錠 (アストラゼネカ)	サンド

● 2021/5期の主な上市品

(2020年6月の新規収載分)

一般名 (規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
エゼチミブ錠 (10mg)	高脂血症治療剤	ゼチーア錠 (MSD)	日本ケミファ
セレコキシブ錠 (100, 200mg)	非ステロイド性 消炎・鎮痛剤	セレコックス錠 (アステラス製薬)	共和薬品工業
メマンチン塩酸塩OD錠 (5, 10, 20mg)	アルツハイマー型 認知症治療剤	メマリー錠 (第一三共)	フェルゼンファーマ
レボセチリジン塩酸塩錠 (5mg)	アレルギー性 疾患治療剤	ザイガル錠 (グラクソ・スミスクライン)	サンド

生産体制最適化への取り組み

原薬

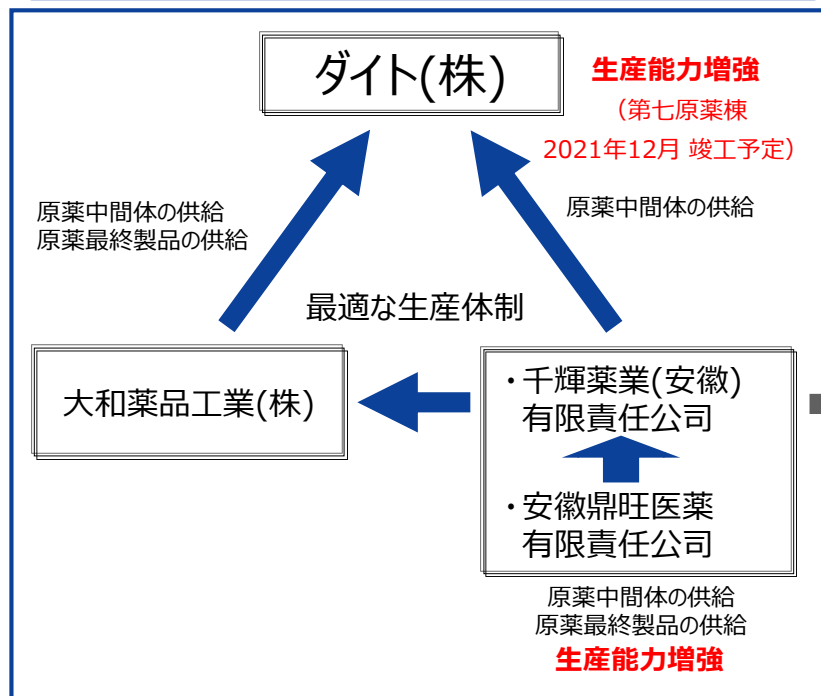
当社及び子会社の大和薬品工業(株)、関係会社の千輝薬業(安徽)有限責任公司、安徽鼎旺医薬有限責任公司以生産

製剤

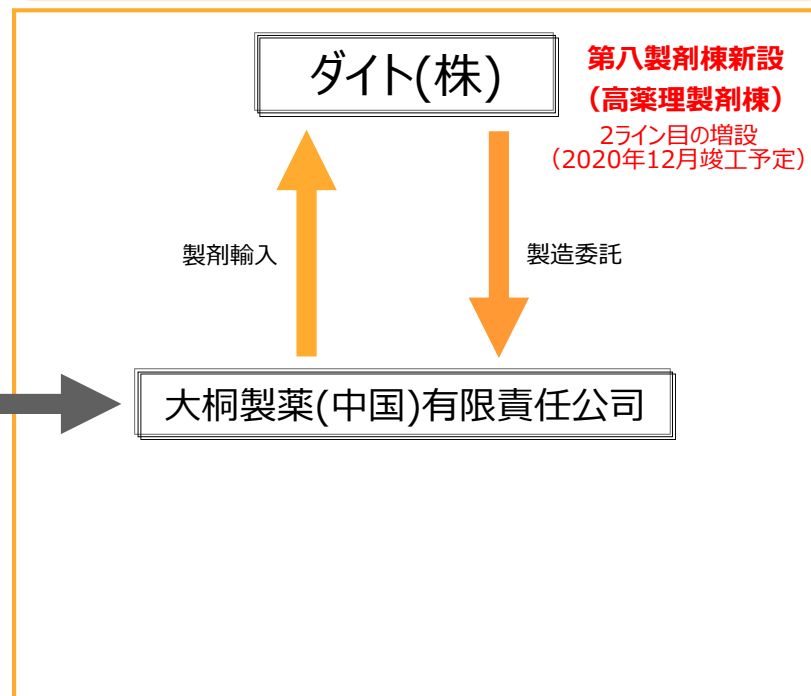
当社及び子会社の大桐製薬(中国)有限責任公司以生産

(注) 赤文字は重点施策

原薬事業の生産体制



製剤事業の生産体制



原薬

本社

第七原薬棟 (完成予想図)

(2020年11月着工予定)



- ・投資額 約35億円
- ・建設工期 2020年11月着工予定、2021年12月竣工予定
- ・生産能力 従来比+10%増
- ・稼働開始 2022年6月 商用生産開始予定

高薬理活性製剤への投資

本社

高薬理R&Dセンター (2017年6月 竣工)



- ・投資額 約17億円
- ・建設工期 2016年8月 着工
2017年6月 竣工
- ・機能と目的

当社の成長戦略に据えております、高薬理活性領域における製剤及び原薬の研究開発体制の整備・強化を図ります。また、小規模スケール（1～10kg）の製剤製造設備を備えており、大手メーカーの治験薬製造受託や自社ジェネリック品の開発などを積極的に行います。

本社

第八製剤棟 (2018年11月 竣工)



- ・投資額 約35億円(建屋, 1ライン目)、約20億円(2ライン目)
- ・建設工期 2017年10月 着工
2018年11月 建屋と1ライン目設備竣工
2020年3月 商用生産開始
2ライン目設備の増設（2020年12月竣工予定）
- ・機能と目的

既存の第七製剤棟と合わせ、高薬理活性領域における製剤の製造体制を強化します。第八製剤棟では第七製剤棟よりもスケールが大きい1ロットあたり50～100kg程度の製剤を製造いたします。これにより、小・中・大スケールの製造設備を保有することになります。

高薬理活性製剤への注力

高薬理活性物質とは・・・

ある種のステロイド類、抗がん剤のように、少量で人体に強い薬効を与えるもの又は毒性を有する物質等

(引用) 一般社団法人製剤機械技術学会 ウェブサイト

- 薬理活性が高い物質 (体重1Kgあたり約15μg以下で生物学的活性を有する/治療用量1mg以下)
- 職業曝露限界 (OEL※) が空気1立方メートルあたり10μg以下の物質
- 発がん性物質、催奇形性又は生殖・発生毒性物質、低用量での臓器毒性物質、遺伝毒性物質 など

※OEL : Occupational Exposure Limit. 健康維持の観点から作業者の曝露レベルを制限するために決められる空気中の限界濃度

高薬理活性製剤への対応の軌跡

- 2014年12月の第七製剤棟竣工により高薬理活性製剤を内製化。
第八製剤棟の竣工 (2018年11月) によって、小規模から大規模までの製剤の生産体制を確立。
- 第八製剤棟 2ライン目の竣工 (2020年12月予定) によって更なる増産要求に対応可能に。

2014年12月 第七製剤棟 竣工 **中規模スケール** (1ロットあたり15kg~30kg) **の製剤を製造**

+

2017年6月 高薬理R&Dセンター 竣工 **小規模スケール** (1ロットあたり1kg~10kg) **の製剤を製造**

+

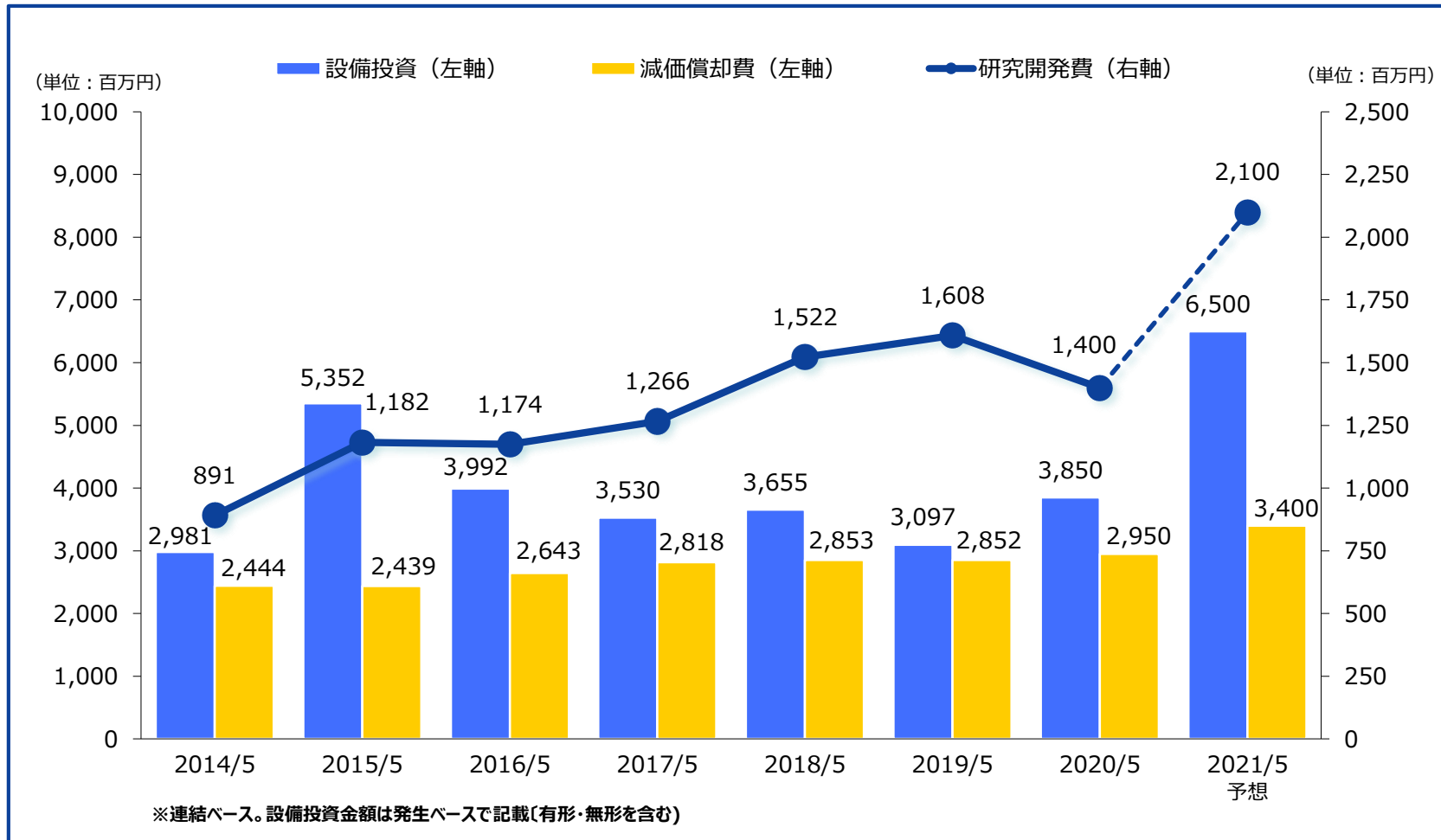
2018年11月 第八製剤棟 竣工(1ライン目) **大規模スケール** (1ロットあたり50kg~100kg) **の製剤を製造**

+

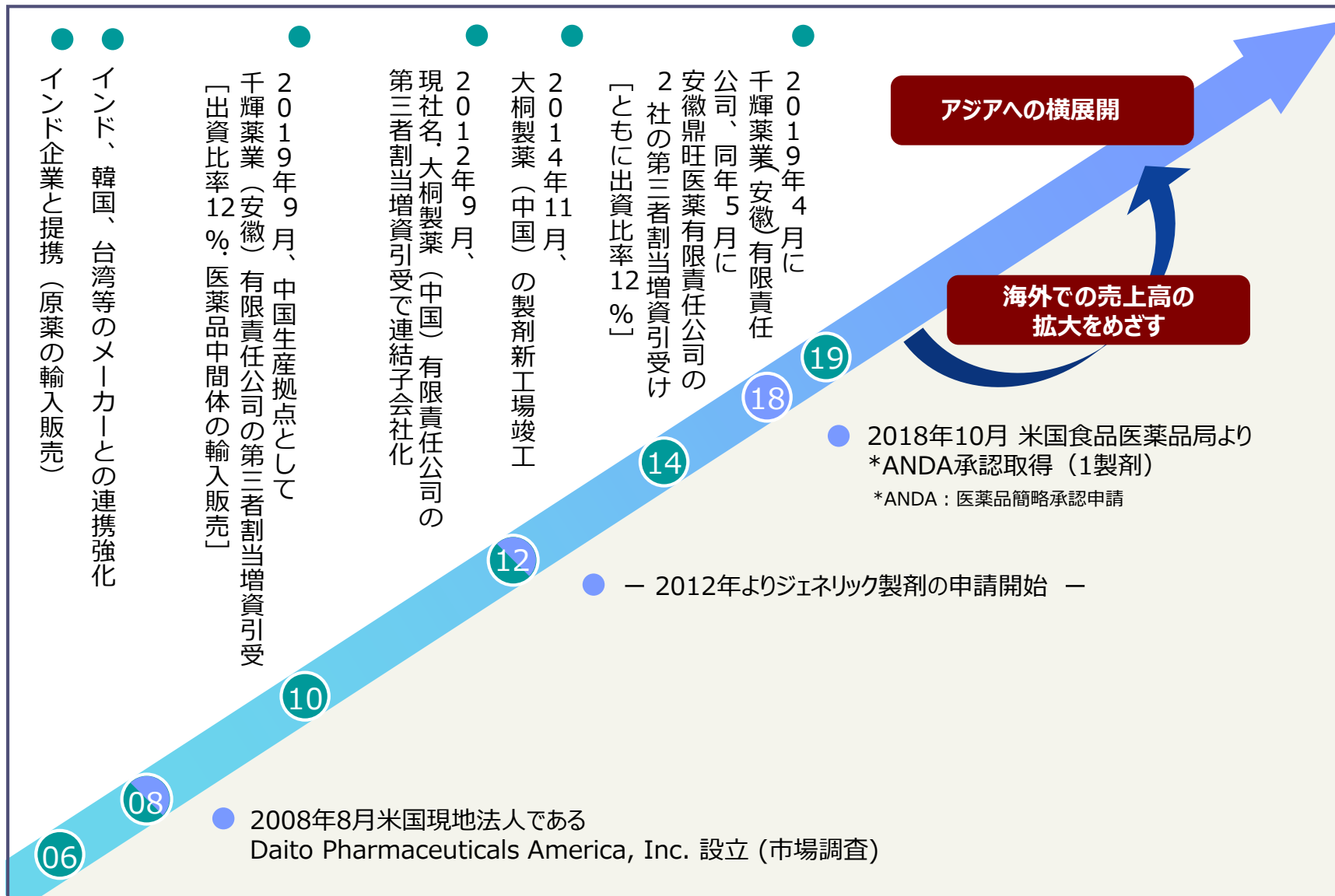
2020年12月 第八製剤棟 2ライン目竣工予定 **大規模スケール** (1ロットあたり50kg~100kg) **の製剤を製造**

設備投資額・研究開発費の推移

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



グローバル展開



Ⅲ. 決算概要と今期予想

決算ハイライト

- 20/5期は、売上高9.4%増収、営業利益17.8%増益、経常利益17.7%増益。
- 前期値と比較すると、売上高営業利益率0.8pt改善、売上高経常利益率0.8pt改善し、EPSも28.92円増加した。

(単位：百万円、%)

	2019/5期		2020/5期		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売上高	41,134	100.0	44,991	100.0	+3,856	+9.4
営業利益	4,547	11.1	5,357	11.9	+809	+17.8
経常利益	4,641	11.3	5,462	12.1	+821	+17.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,513	8.5	3,944	8.8	+431	+12.3
EPS (円)	280.73	-	309.66	-	+28.92	-
配当金 (円/株)	38.00	-	46.00	-	+8.00	-
研究開発費	1,608	-	1,400	-	△208	-
減価償却費	2,852	-	2,950	-	+97	-
設備投資額	3,097	-	3,850	-	+752	-

※研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

部門別売上高

- 原薬は、商品のGE原薬が好調、製品は堅調に推移した。
- 製剤は、製品のGE医薬品が好調、長期収載品の製造受託が堅調、一般用医薬品はやや厳しめ、商品は好調に推移した。
- 健康食品他は、競争激化等により、厳しい状況で推移した。

(単位：百万円、%)

	2019/5期		2020/5期		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	%
原薬	22,075	53.7	24,211	53.8	+2,135	+9.7
製品	14,877	36.2	15,141	33.7	+264	+1.8
商品	7,198	17.5	9,069	20.2	+1,871	+26.0
製剤	18,758	45.6	20,530	45.6	+1,772	+9.4
製品	16,068	39.1	17,697	39.3	+1,629	+10.1
商品	2,690	6.5	2,833	6.3	+143	+5.3
健康食品他	300	0.7	250	0.6	△50	△16.9
売上高合計	41,134	100.0	44,991	100.0	3,856	+9.4

要約損益計算書

(単位：百万円、%)

	2019/5期		2020/5期		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売上高	41,134	100.0	44,991	100.0	+3,856	+9.4
売上原価	32,463	78.9	35,506	78.9	+3,043	+9.4
売上総利益	8,671	21.1	9,484	21.1	+812	+9.4
販管費	4,124	10.0	4,127	9.2	+2	+0.1
営業利益	4,547	11.1	5,357	11.9	+809	+17.8
営業外損益	94	0.2	105	0.2	+11	-
経常利益	4,641	11.3	5,462	12.1	+821	+17.7
特別損益	△ 22	△ 0.1	132	0.3	+155	-
税引前利益	4,618	11.2	5,595	12.4	+976	+21.1
法人税等	1,122	2.7	1,670	3.7	548	+48.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,513	8.5	3,944	8.8	+431	+12.3

原価率

- 商品増加による製品Mix悪化の一方で、原薬と製剤の製品利益率上昇、やや円高の為替影響もプラスとなり、昨年とほぼ同水準の原価率

販管費

- 研究開発費208百万円減少の一方で、減価償却費増加、人件費増加、修繕費増加などの要因があり、結果、販管費は2百万円増加

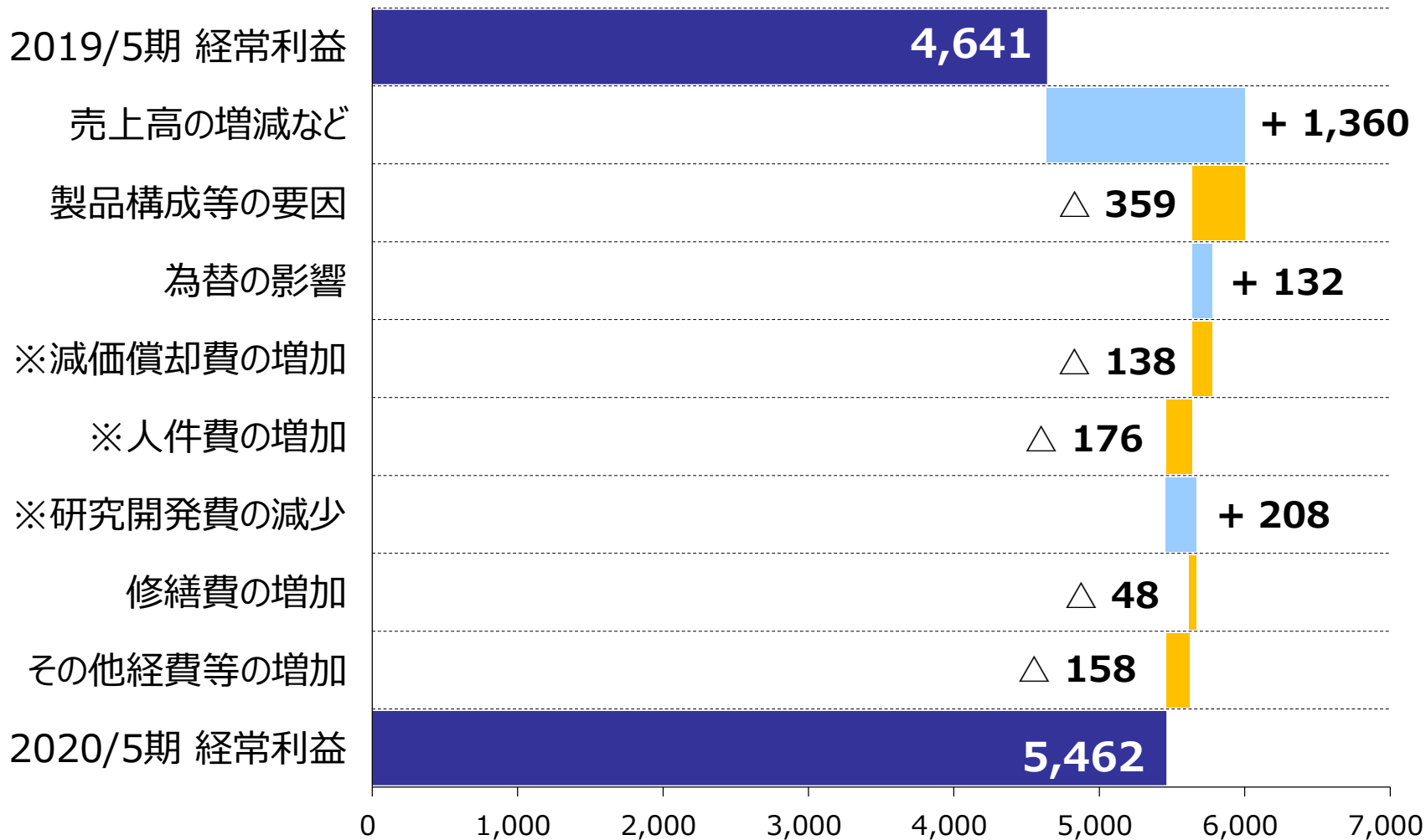
特別損益

- 投資有価証券売却益149百万円

※売上原価には、返品調整引当金戻入額・繰入額を含む

経常利益の増減分析

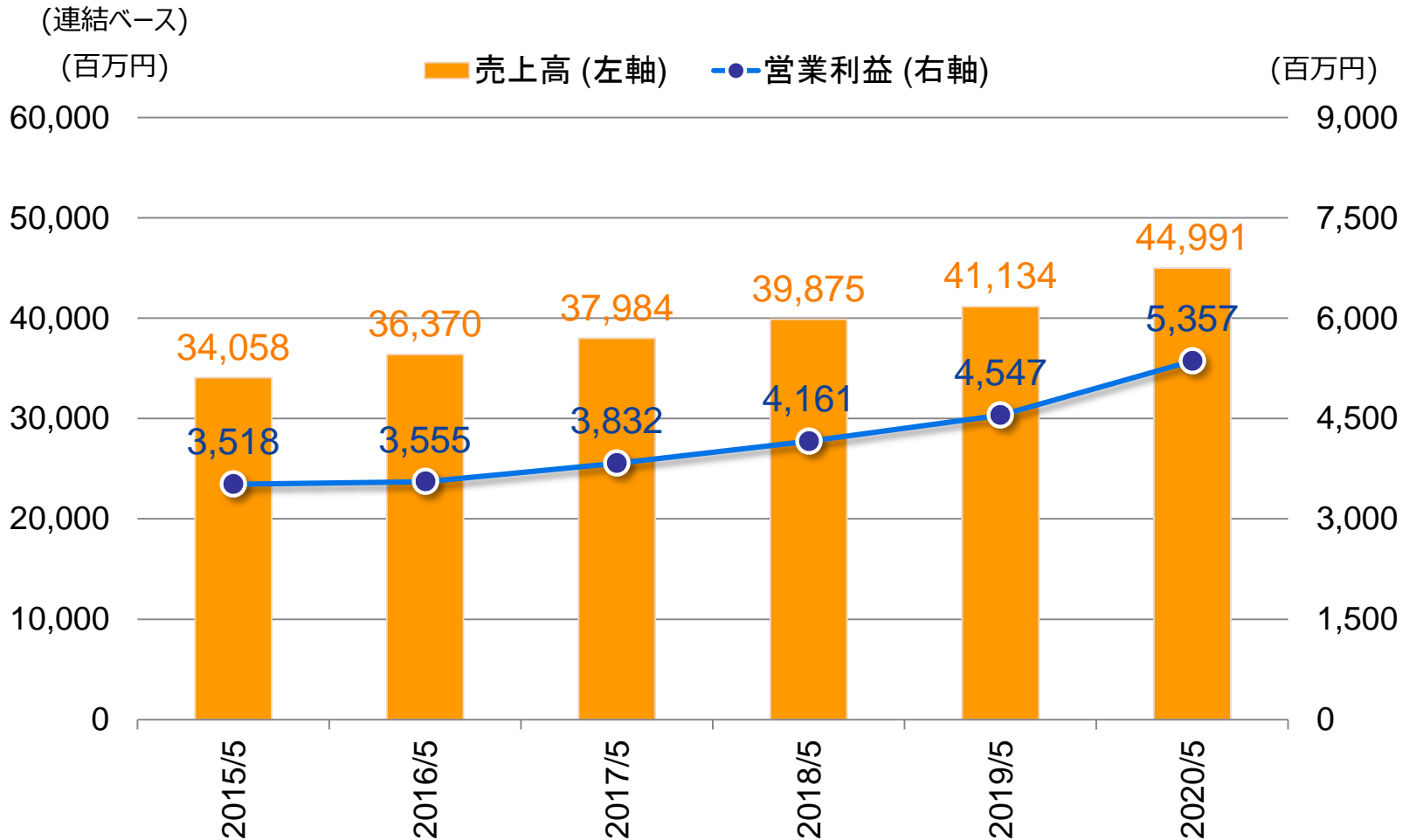
(単位：百万円)



※研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

売上高・営業利益推移

売上・営業利益・当期純利益は、上場以来2020年5月期まで11期連続で増収増益を達成



要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2019/5末	2020/5末	増減額
流動資産	24,360	30,855	+6,494
現金及び預金	1,819	3,084	+1,264
売上債権*	12,184	15,534	+3,350
棚卸資産	10,059	12,130	+2,071
固定資産	22,388	23,394	+1,006
有形固定資産	18,732	19,399	+667
資産合計	46,749	54,249	+7,500

売上債権	+33.5億円 ※
● 電子記録債権	+36.7億円

棚卸資産	+20.7億円
● 原材料・仕掛品	+13.6億円

流動負債	11,617	15,054	+3,436
仕入債務*	6,775	8,189	+1,413
短期有利子負債	1,851	1,512	△ 339
固定負債	3,781	2,327	△ 1,454
長期有利子負債	3,093	1,581	△ 1,512
負債合計	15,399	17,381	+1,981
純資産合計	31,349	36,868	+5,518

仕入債務	+14.1億円 ※
● 電子記録債務	+11.6億円

長期有利子負債	△ 15.1億円
● 長期借入金	△ 15.1億円

純資産	+55.1億円
● 当期純利益	+35.1億円
● 資本金	+10.0億円
● 資本剰余金	+10.0億円

* : 電子記録債権、電子記録債務を含み、ファクタリング債権、ファクタリング債務を含まない

※ 当期末は期末日休日につき、決済が翌月となっております。

要約キャッシュフロー計算書

- ・ 営業C Fは43億円の受取超過、投資C Fは26億円の支払超過。
- ・ 有利子負債返済で、財務C Fは3.5億円の支払超過。

(単位：百万円)

	2019/5期	2020/5期
営業キャッシュ・フロー	6,888	4,306
税引前利益	4,618	5,595
減価償却費	2,852	2,950
売上債権の増減額 (△は増加)	947	△ 3,369
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△ 750	△ 2,075
仕入債務の増減額 (△は減少)	335	1,229
法人税等の支払額	△ 1,431	△ 810
投資キャッシュ・フロー	△ 3,867	△ 2,681
有形固定資産の取得による支出	△ 3,630	△ 2,731
財務キャッシュ・フロー	△ 2,898	△ 350
短期・長期借入金のネット収支	△ 2,438	△ 1,851
現金及び現金同等物の期中増減額	107	1,264
現金及び現金同等物の期末残高	1,819	3,084

2021年5月期 業績予想

- 2021年5月期は、5.6%増収、7.6%営業利益減益の予想。
- 将来の成長を目指し、設備投資の大幅増額を行うため減価償却費4.4億円増加、また研究開発費6.9億円増額のため、各段階利益は減益の予想。

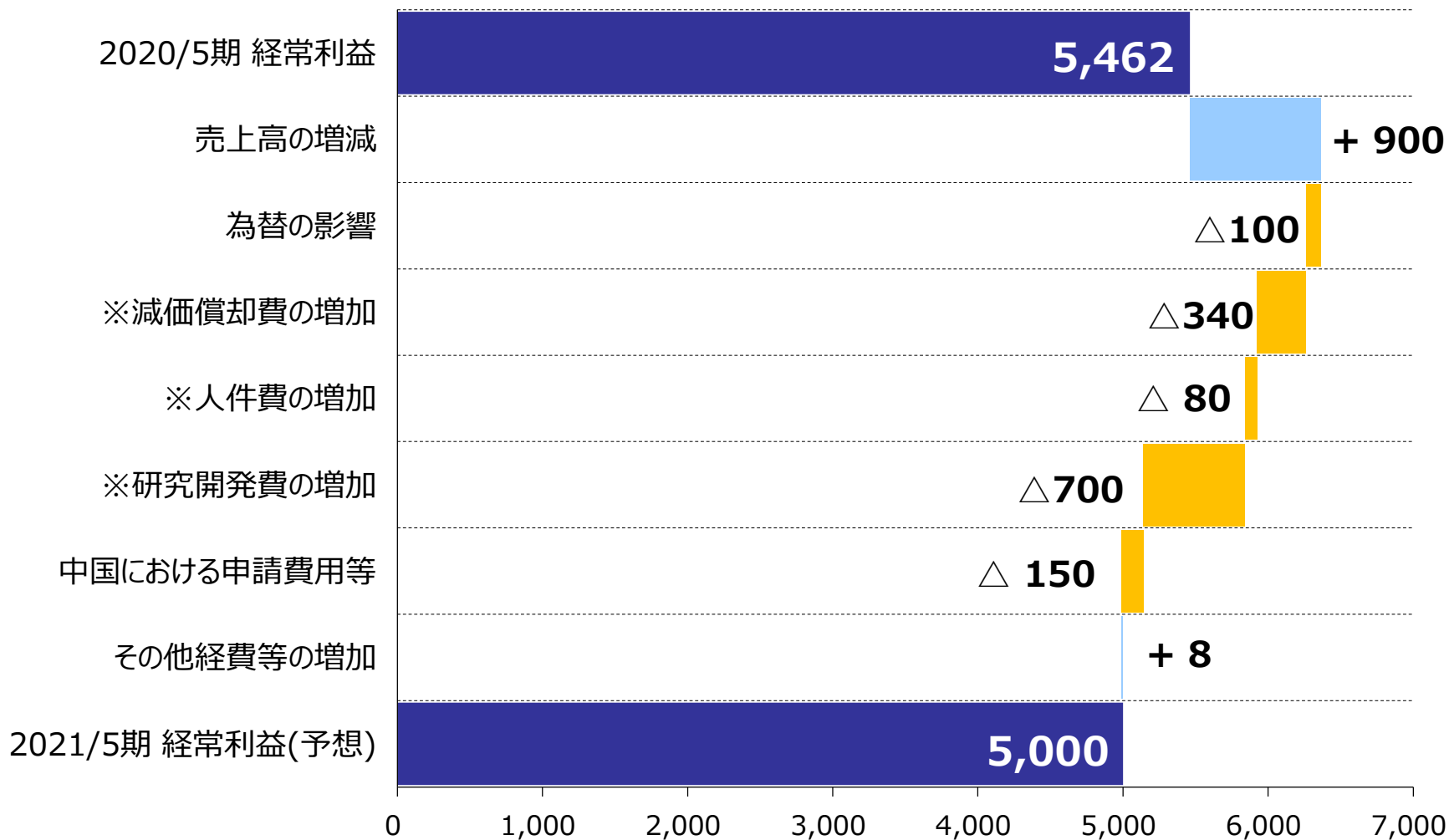
(単位：百万円、%)

	2020/5期		2021/5期 予想		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売上高	44,991	100.0	47,500	100.0	+2,508	+5.6
営業利益	5,357	11.9	4,950	10.4	△ 407	△ 7.6
経常利益	5,462	12.1	5,000	10.5	△ 462	△ 8.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,944	8.8	3,400	7.2	△ 544	△ 13.8
E P S (円)	309.66	—	252.96	—	△ 56.69	—
配当金(円/株)	46.00	—	46.00	—	±0.00	—
研究開発費	1,400	—	2,100	—	+699	—
減価償却費	2,950	—	3,400	—	+449	—
設備投資額	3,850	—	6,500	—	+2,649	—

※研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

2021年5月期 経常利益の増減分析

(単位：百万円)



※研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

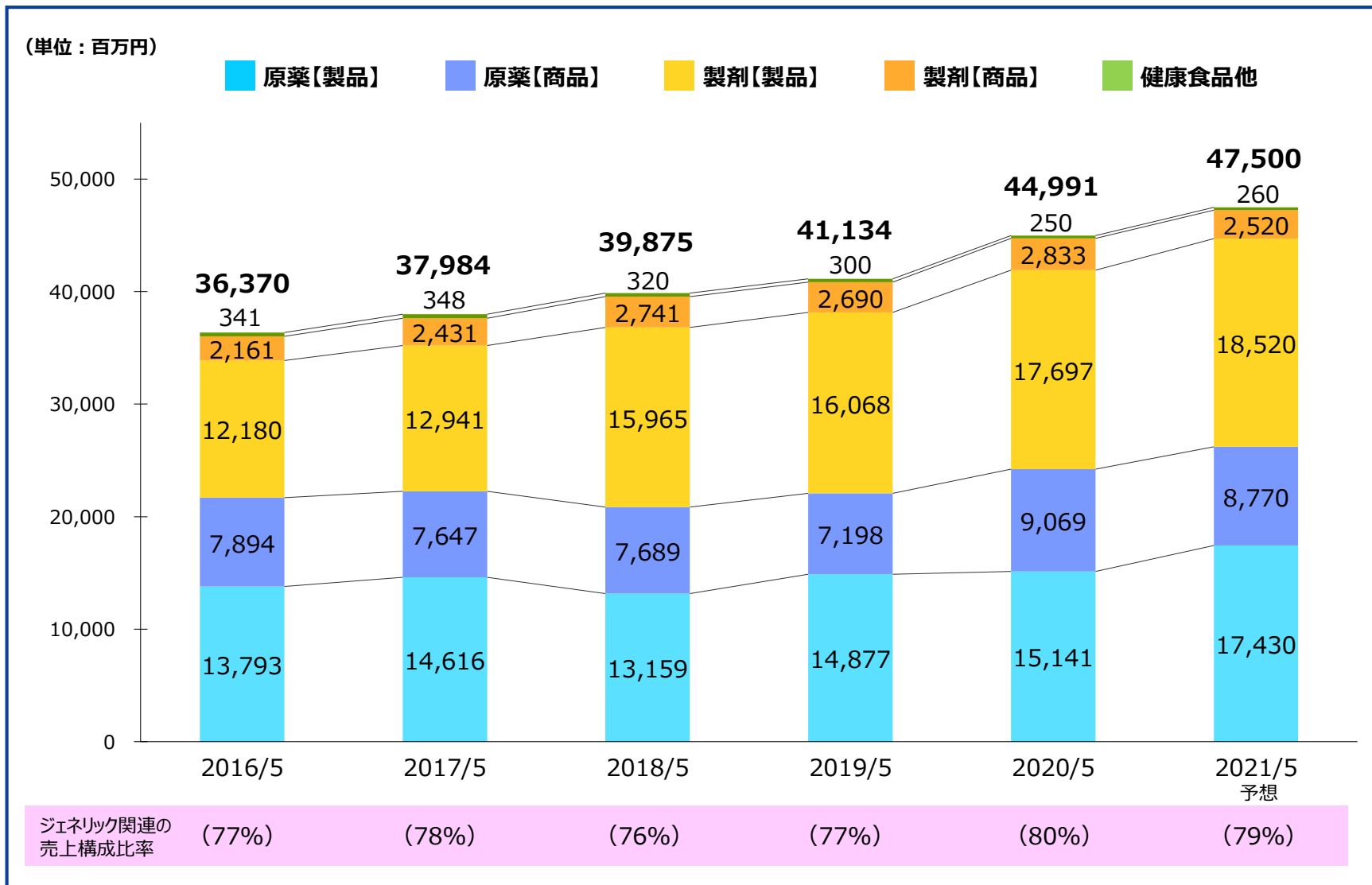
2021年5月期 部門別売上予想

- 原薬は、GE医薬品向けの伸長や国産原薬の引き合いにより製品の増収を見込み、一方で前期に発注の多かった大型商品の減収を見込む。
- 製剤は、薬価改定で厳しい環境だが、GE市場拡大で製品の堅実な増収を見込み、一方で商品は競争の激化で減収を見込む。

(単位：百万円、%)

	2020/5期		2021/5期 予想		前期比増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	%
原薬	24,211	53.8	26,200	55.2	+1,988	+8.2
製品	15,141	33.7	17,430	36.7	+2,288	+15.1
商品	9,069	20.2	8,770	18.5	△ 299	△ 3.3
製剤	20,530	45.6	21,040	44.3	+509	+2.5
製品	17,697	39.3	18,520	39.0	+822	+4.7
商品	2,833	6.3	2,520	5.3	△ 313	△ 11.1
健康食品他	250	0.6	260	0.5	+9	+4.0
売上高合計	44,991	100.0	47,500	100.0	+2,508	+5.6

部門別売上高の推移と予想



株価の推移 (2016年1月4日～2020年8月17日)

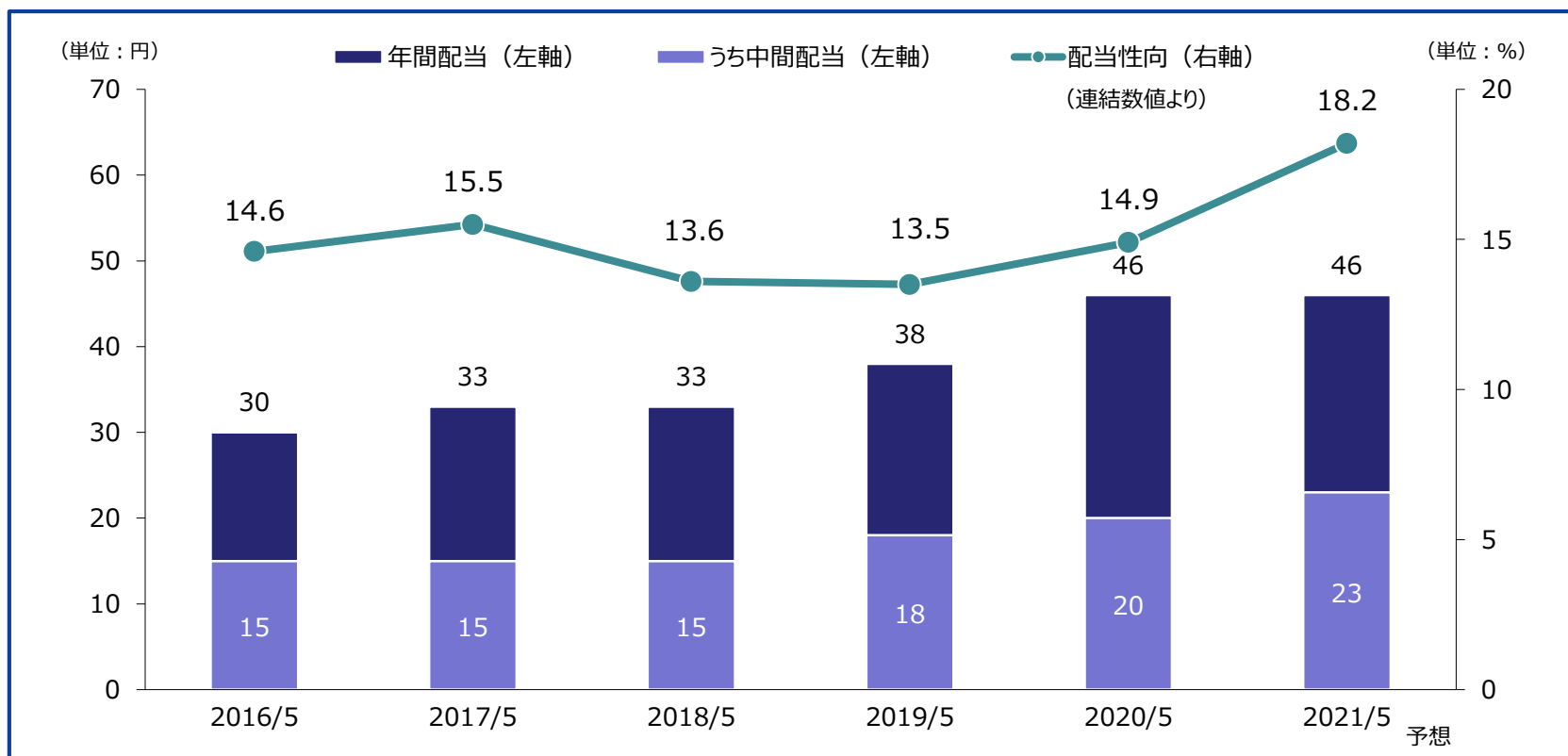


(注) 株価は2015年4月の株式分割を勘案した日足終値ベース。

株主還元（配当金）

- 当社は、事業価値の持続的増大と、それによる株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題として位置づけております。
- 利益還元は、当該期の業績に加え、今後の成長投資や財務体質の強化を考慮し、安定的な配当実施を重視しております。
- 2021/5期の年間配当金は、1株当たり46円を予定しております。

1株当たり配当金・配当性向の推移



（注）2017年5月期の配当金33円には記念配当3円を含む。2020年5月期の配当金46円には記念配当6円を含む。

新型コロナウイルス(COVID-19)の影響について

- 輸入品に若干の納期遅延が発生しているものの、現時点での業務への影響は軽微です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を適切に予想するのは、現時点では難しいことから、2021/5期の業績予想には、新型コロナウイルスの影響を織り込んでおりません。
- 今後の状況により、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかにお知らせ致します。

状況を注視しながら、お客様、地域の方々、及び従業員の安全を最優先に、業務に取り組んで参ります。

IV. 中期経営計画

3カ年中期経営計画2023

期間：2020年6月～2023年5月

- 薬価の切り下げを中心とした社会保障費抑政策を受け、日本の医薬品市場は今後厳しい状況で推移するものと予想されます。
- ジェネリック医薬品についても、平成27年6月および平成29年6月の閣議決定にて設定された長期的な目標である「後発医薬品の使用割合80%」が、まもなく実現^(※)されようとしています。
- このように、日々、医薬品業界・後発品業界を取り巻く環境が厳しさを増す中、我々は、中長期的な視点にたってビジョンを実現する必要性を強く認識し、この度、3カ年の中期経営計画を策定致しました。

※ 2020年1月～3月期の数量シェア 78.5% (日本ジェネリック製薬協会)

1

高薬理活性製剤の受託拡大及び自社製販品目の開発

2

日本・中国を通じた原薬生産体制の最適化

3

米国・中国を中心とした海外展開強化

4

新技術・新領域への挑戦

5

100年[※]企業を見据えた人材の育成

※ ダイト株式会社は2021年5月期で創業79周年を迎えます。

計数目標

	2020/5期 実績	2021/5期 予想	2023/5期 目標
売上高	44,991百万円	47,500百万円	53,000百万円
営業利益(率)	5,357百万円 (11.9%)	4,950百万円 (10.4%)	5,500百万円 (10.4%)
ROE^{※1}	11.7%	8.0%以上	8.0%以上
研究開発費	1,400百万円	2,100百万円	2,100百万円
減価償却費	2,950百万円	3,400百万円	3,800百万円
設備投資額^{※2}	3,850百万円	6,500百万円	3,500百万円
部門別売上高	原薬 24,211百万円 製剤 20,530百万円 健食 ^{※3} 250百万円	原薬 26,200百万円 製剤 21,040百万円 健食 260百万円	原薬 29,820百万円 製剤 22,900百万円 健食 280百万円

※1：ROE算出に使用した自己資本は期中平均値

※2：設備投資額は発生ベース

※3：健康食品他

CSRに関する取り組みについて

ダイトグループは経営理念『社員が“楽しい会社、楽しい仕事”を実感できる働きやすい職場を作り、健康な社会作りに貢献し、選ばれ続ける企業を目指します。』の実現を通じて、企業価値の最大化を目指すと共に持続可能な社会の構築に貢献事業活動を推進しております。

この度、その活動の一環として、CSR〈企業の社会的責任〉を中期経営計画に取り込み、事業と一体となったCSRを一層推進することといたしました。

ダイトグループは様々なステークホルダーの皆さまに医薬品をお届けする総合医薬品メーカーとして、人々の生命・健康に深く関わる社会的使命を強く自覚し、人と社会と地球環境の持続的発展に貢献する事業活動を推進して参ります。

これまでの活動の一例

- 高品質な原薬や製剤の安定供給
- 新型コロナウイルスに効果があると期待される「アビガン」錠の製造受託
- 富山県新型コロナウイルス対策応援基金への寄付
- 富山県及び富山市への医薬品産業振興を目的とした寄付

この資料は投資家の皆様の参考に資するため、ダイト株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、説明会開催日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資を行う際は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



原薬から製剤まで 医薬品のダイト

ダイト株式会社 経営企画室

TEL : 076-421-8755

FAX : 076-421-5691